

自らの考えと既習事項を結び付けて、単元の課題を追究できる児童の育成 —視覚的資料を取り入れた1枚ポートフォリオとICT端末の活用を通して—

特別研修員 社会 藤生 健一（小学校教諭）

授業実践：第4学年 「水害からくらしを守る」

目指す児童像：自らの考えと単元時間の学習内容を結び付けて、単元の課題を追究できる児童

手立て① まとめの蓄積

自分の考えを基に選んだまとめに関連する**視覚的資料**と既習事項を結び付けて、各単元時間のまとめを1枚ポートフォリオに書きためさせる。

一枚ポートフォリオのよさ

- ・ 単元時間ごとのつながりが見える
- ・ 単元の見通しがもてる
- ・ 既習事項の振り返りができる



視覚的資料を用いた1枚ポートフォリオ

手立て② ICT端末の活用

考えを交流させて自分だけでは気付かなかった新たな考えに出会う機会をつくる

既習事項を根拠とした考えを集計ソフトに入力させる。ICT端末で全体の考えを確認させてから、もう一度自分の考えを見直して、調整させる。

表計算ソフトを使い、データを共有することによって、瞬時にクラス全員の意見を確認できる

水害の備えには
マイタイムラインも
あるんだ!



<p>③ 消防隊や自衛隊の人が助けてくれる。</p>	<p>④ まとめ 家庭では、避難バッグや避難場所を確認することなどの対策が必要。</p>	<p>⑤ まとめ 学校や地域では、飲料水や食料などの準備をしている。</p>	<p>⑥ まとめ 市では防災マップを作って市民に知らせている。</p>
<p>⑧ わたしたちのくらしを守るために、わたしたちはマイタイムラインを作ったり、避難バッグの準備をしている。学校や地域では、非常用の飲料水や食料を用意している。国や県が助ける仕組みがある。</p>	<p>⑦ まとめ 消防団と自主防災組織という災害時に住民同士が助け合う組織がある。</p>	<p>⑦ まとめ 市と住民が協力して、水防訓練をしている。</p>	

手立て③ 振り返りの工夫

1枚ポートフォリオを活用し単元の課題に対する予想と答えを比較させ、単元の振り返りをさせる

予想と結論を比較し、新たなキーワードにアンダーラインを引かせ、自らの考えが既習事項と結び付いていることや、友達との交流で調整できたことに気付かせる。

視覚的資料があると、どのようなことを学習してきたかが分かりやすいな。

単元の結論を考えるときには、今まで学習してきたことを基に考えたり、友達の見解を参考にしたりしながら考えればよいね。

児童の実態

- ・ 単元の課題に対する結論を書くことに苦手意識がある。
- ・ 学習を進めていく中で、自分の考えを既習事項と結び付けて考えることに課題が見られる。



教師の願い

- ・ 単元の課題に対する結論を導けるようになってほしい。
- ・ 自分の考えと既習事項を結び付けて単元の課題を追究できるようになってほしい。



成果

- 視覚的資料と既習事項を1枚ポートフォリオ上で結び付けることにより、結論を書く上で必要なことが児童にとって分かりやすくなった。
- 単元の課題に対する予想と結論を比較することで、自らの考えが変容してきたことに気づき、考えを深めることができた。

課題

- 1枚で一単元の内容をまとめるポートフォリオを作成するためには、ポートフォリオに書き込む内容を精選する必要がある。
- さらに考えを深める手立てとして、なぜそのような単元の結論になったのか質問できる場を設け、意見交流をさせることも考えられる。